2024年度業務実績報告書

提出日　　2024年12月16日

１．職名・氏名　　教授・木村小夜

２．学位：博士（文学）、奈良女子大学、1994年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）主たる配当年次等 ・教養特講（研究の世界）（２単位）1年生
②　内容・ねらい オムニバス形式の授業でコーディネーターを兼任。一般教育科目履修登録の参考ともなるよう、初回に学術教養センター教員全員の紹介を行い、授業全体のガイダンスとした。各教員が専門領域を生かして、一つのテーマについて一回づつ講述。自分の研究に関して、選択の動機や面白いと感じていることを、具体的な作品読解を通して講述。
③　講義上の工夫 受講者は大人数で一回限りの授業であるため、詳細なプリントを用意。書画カメラ（視覚教材）を援用。最後に全体のまとめとなる具体的な課題を出し、二百字で解答させた。
①　　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 国文学史（２単位）１，２、３年生
②　　内容・ねらい 近代日本文学の流れを辿る。主として明治以降の小説・作家についての教養を身につけると同時に、文学の範囲内にとどまらず、近代という現在の価値観の原型を形作ったとも言える時代への理解を深める。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 a.文学史は暗記物ではなく、時代の推移の中で理解すべきもの、との考えから、極力、文学以外のトピック（とりわけ目に見えるモノ）と結びつける内容で授業を作っている。また、作品や著述のさわりを読み、粗筋を極力紹介。作品と作家と何々派を結びつけられれば可、というものにはしたくない。 b.板書事項は主として説明のために使用し、学生には内容に集中してもらうため、知識として必要な情報を配布プリントにまとめている。国文学・文学概論と同様、プリントは試験対策ともなるよう、各項目でのおさえどころを冒頭に示している。 c. 受講者に対しては一方的な講義にとどめず、問いかけも頻繁に行い、意見紹介を行った。また、講義が一方通行にならぬよう、二百字程度の小課題を提出させ、次回の冒頭でそれを紹介しつつ講義内容に組み込む。また課題内容は、その時間の授業全体を踏まえた上で自由な思考力を問うものを設定している。
①　　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 文学概論（２単位）１、２、３年生
②　　内容・ねらい いくつもの文学作品に共通して表れる様々な対比や世界間の越境など、作品に組み込まれている装置や普遍的な主題について講述する。具体的には、小説が書かれていく過程と密接に関わる「自分について書くこと」、即ち日記や手紙などのジャンルから、様々な作家や文章を引き合いに出して考察を深めることを目的とする。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
a.講義が一方通行にならぬよう、数回に一度、二百字程度の小課題を提出させ、次回の冒頭でそれを紹介しつつ講義内容に組み込んだ。また課題内容は、その時間の授業全体を踏まえた上で自由な思考力を問うものを設定している。
b.資料については、理解に集中して欲しいと考え、講義内容を後で再現出来るようなものを作成。試験対策ともなるよう、各項目での要点を冒頭に示す。
c.授業中盤での息抜きとして、昔のヒットソングを聴かせる。歌詞を配布し、解釈や時代背景説明を行い、関連する小説などを紹介。課題にも組み込んだ。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
教養ゼミ「パロディを読む」（１単位）１年生

②　内容・ねらい
森見登美彦『新釈　走れメロス　他四編』の各編について原典と比較しながら精読する。全体で議論の後、発表・質疑へと進める。導入ゼミに引き続き、自発的な問題点の発見と表現力を培うことがねらい。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
a.学生のモチベーションを優先すべく、発表の題材となる作品、レポート課題は自発的に選ばせた。
b.レジメ作成・これに基づく口頭発表・質疑という演習の基本を習得させるため、作品への着眼点などを最初の授業で講述した上で、教員がまず発表のデモンストレーションを行った。
c.自分で問題点を見つけるという大学での勉強の姿勢と高校までの（とりわけ受験国語的で）受動的な勉強との違いを示し、後者からの脱却を図っている。レジメ作成と発表については、GC上での個別指導を行い、ゼミの時間が有意義に使えるように努めた。
ｄ.説明的文章、いわゆるレポートを書く機会は他分野でも多いので、ここでは扱った作家と同じような流儀でパロディを書くことを課題として試みた。授業での作品理解の深まりが実作の内容にまで表れ、書いた本人が意識しなかったことを読み取る学生もいるなど、書かれたものと書き手の関係もかいま見える。学生相互の刺激にもなり、興味深い展開になることが多い。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
学術ゼミ（２単位）１～４年生

②　内容・ねらい
小説に関心を持つ学生を対象に、日本近代の代表的な短篇を精読し、発表と議論を行う。後期は三島由紀夫自選短編集『真夏の死』各作品の精読。所属学科で学ぶ内容とはまったく別の対象、ものの見方によって視野を広げ、小説解釈の深い世界に踏み込むことがねらい。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
教養ゼミa.bに同じ。モチベーションは高いが、同時に就職活動が忙しい受講生が多いので、ゼミ初回に関心のありかや希望を聞き、半年間の予定には変更も可能なよう、融通を持たせている。

（２）その他の教育活動

演劇サークル、文芸部、日本遊戯振興会、よっしゃこい顧問。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書　（共著）
小池陽慈編著『つながる読書』ちくまプリマー新書、2024年3月
「『お伽草紙』（太宰治著）」「木村小夜→小川貴也」157～170頁、267～270頁

②学術論文（査読あり）
「新学習指導要領下の大学入学共通テスト―「国語」の〈新傾向〉問題から考える」『福井県立大学論集』60号（2024.1）

③その他論文（査読なし）

④　学会発表等
「令和7年度大学入学共通テスト 試作問題『国語』」の検討
神奈川県高教組教育研究会・日本語（国語）教育小委員会例会 2024年3月17日

⑤その他の公表実績
「新刊紹介・田中綾『三浦綾子・光世物語』」
2024年『社会文学』59号、日本社会文学会、137頁
「映画『福田村事件』批評集―善意の行方」
2024年『社会文学』59号、日本社会文学会、99～100頁
「書評・岡村知子著『文学と地域―自他が尊重される〈場〉を問う』」
2025年『社会文学』61号、日本社会文学会（未刊行・原稿提出済）

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

(3)特許等取得

(4)学会活動等
『社会文学』第59号編集委員（昨年からの継続）、日本文学協会近代部会委員（2021,12～継続）

５．地域・社会貢献活動

①　国・地方公共団体等の委員会・審議会
①-2福井県ふるさと文学館受入資料評価委員会（書面開催）
②　地方公共団体等の調査受託等
③　（公益性の強い）NPO･NGO法人への参加
④　（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤　大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
福井県立藤島高等学校「教養テキスト」編集委員（編集会議に数回出席）
⑥　公開講座・オープンカレッジ等の開講

６．大学運営への参画

(1)補職（副学長、部局長、学科長）

(2)委員会・チーム活動
職場委員会委員

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など